

再生可能エネルギーを核とした農福連携推進事業基本構想(案)

に関するパブリックコメント結果公表

再生可能エネルギーを核とした農福連携推進事業基本構想は、震災仮設住宅跡地の利活用を図るとともに、農福連携と再生可能エネルギーの活用による共生社会の実現に向けた実践の場となる、「(仮称) おおたま再エネ・アグリパーク」の整備に向けた計画です。このたび、本計画の素案がまとまりましたので、計画(案)についてご意見を募集しました。

本計画(案)に対する村民の皆様からお寄せいただきましたご意見及びそれに対する村の考え方について取りまとめましたのでお知らせいたします。

貴重なご意見等をたまり誠にありがとうございました。

1 意見公募の実施状況

- (1) 募集期間 令和5年2月22日(水)から令和5年3月8日(水)
- (2) 公表方法 大玉村役場政策推進課での閲覧、村ホームページへの掲載
- (3) 提出方法 直接持参、郵送、ファクシミリ、電子メール

2 提出意見数

- (1) 直接持参によるもの 0通
- (2) 郵送によるもの 0通
- (3) ファクシミリによるもの 0通
- (4) 電子メールによるもの 5通

3 お問い合わせ先

〒969-1392 大玉村玉井字星内70番地

大玉村役場総務部政策推進課企画係

電話：0243-24-8136

ファクシミリ：0243-48-3137

E-mail seisakusuishinka@vill.otama.fukushima.jp

再生可能エネルギーを核とした農福連携推進事業基本構想(案)
パブリックコメントの実施結果について

1. 募集期間：令和5年2月22日～3月8日
2. 提出意見：5通（39件）
3. お寄せいただいたご意見の概要とそれに対する村の考え方

No.	ご意見の概要	件数	村の考え方
1	①P18、P26、P31、 ブルーベリーパークびぼば 福島県相馬郡新地町小川字仏方 31-1 こんな取り組みもいいのではないですか。 https://blueberry-pipopa.com/	1	① 今後の検討の参考とさせていただきます。なお、事業計画案は本構想策定後に検討していく予定です。また、栽培品目・栽培方法については、開業後に少しずつ試験栽培を行いながら現地での栽培に適したものの、栽培管理が可能なものを念頭に決定していく予定です。
2	①P16 4.1.1 農福連携機能 生產品目選定にあたり、あだたらの里直売所に出荷するのであれば、取扱のない品目にすべきだ。決して村内の生産者の利益を脅かしてはならない。	1 (6)	① 品目検討及び販路を検討する際の参考とさせていただきます。
	②P16 4.1.1 農福連携機能 販路は委託販売コーナーをもつヨークベニマルに委託し郡山市内や福島市内の店舗に出荷してもらうのが良い。		② 品目検討及び販路を検討する際の参考とさせていただきます。
	③P16 4.1.1 農福連携機能 六次化の取り組みをするのであれば選定品目により加工施設の中身が変わるので加工品の早期決定が望まれる。		③ ご意見を踏まえ、事業化検討段階で明らかになった点については、施設検討に反映したいと考えます。なお、栽培品目・栽培方法については、開業後に少しずつ試験栽培を行いながら現地での栽培に適したものの、栽培管理が可能なものを念頭に決定していく予定です。

	<p>④22P での品目椎茸は原木栽培を考えているが 24P の有明ファームきのご園は菌床栽培なので同様に考えてはいけない。</p> <p>菌床栽培では廃菌床の活用法を考えないといけない。また、循環型のバイオ式生ゴミ処理の活用もすべき。</p>		<p>④ 品目検討及び販路を検討する際の参考とさせていただきます。菌床栽培のしいたけを採用する際は、ご指摘頂いた視点も踏まえ、栽培管理を検討します。</p>
	<p>⑤温泉ボーリングは考えてはいないのでしょうか？</p>		<p>⑤ 地中熱の活用については今後導入検討を行う予定です。しかしながら、当施設は再生可能エネルギーの活用と農福連携の取組拠点となることを考えており、現時点では温泉ボーリングは想定しておりません。</p>
	<p>⑥農福商工連携ではないのか？</p>		<p>⑥ 農福商工連携では、福祉事業者が作物の販売まで実施する形で紹介されている他、現時点では工業との連携も想定していないことから、国や県が進める農福連携との表現を採用しています。</p>
3	<p>①はじめに</p> <p>本地区の跡地利活用は、以前より検討がなされてきました。今回、職員によるプロジェクトチーム検討結果を踏まえ、ここまで前進をみたことに一村民として敬意を表します。</p> <p>1. 応急仮設住宅の跡地利活用であることの再認識を。</p> <p>一般的には必要な政策が前提にあって事業実施するが、今回のケースは跡地をどう利活用するかである。「基本構想」とはいえ、総花的にならないよう、P44 ページに記載されているように各段階において、足元をしっかりと見極めながら取り組んでほしいです。</p>	1 (4)	<p>① 本構想策定後により詳細な事業検討等を行います。ご指摘の点は検討の際の参考とさせていただきます。</p>
	<p>② 2. 本格的事業実施前における試行の重視とその結果に</p>		<p>② ご指摘のとおり、検討を進めます。</p>

	<p>基づく着実な実行を</p> <p>P45 ページにあるように、小規模な試行を重ね、そのうえで将来本村にとって必要なものなのか熟慮をし、着実な事業実施を期待します。</p>		
	<p>③ 3. 後の世代に「整備して良かった」と言ってもらえる事業を。</p> <p>基本構想策定以後、具体的に実施するまでには、様々な手続きや事務などあるが、村民の理解と協力が必要であることは言うまでもありません。</p> <p>事業運営は、指定管理制度を活用する趣旨であるが、いずれにせよ、本村の身の丈にあった事業展開と財政負担を考慮しつつ、次の時代を担っていただく方々に、「整備してもらって良かった」と言ってもらえる整備を、村職員の皆様と共に望みます。</p>		<p>③ 整備資金については、活用可能な補助金の確保や企業版ふるさと納税などを活用し、村の財政負担軽減を図るとともに、段階的に整備を進めながら試行を行い、事業展開の見通しをつけながら、徐々に規模拡大していくことを想定しております。</p>
4	<p>①P16 4.1.1 農福連携機能【基本的な考え方】</p> <p>当初は、農業用ハウスでの小規模な栽培を試行することから始め、成功した生産品目や生産方法を拡張する等、段階的に機能強化を図ります。</p> <p>→ 経営分野の観点で考えますと数 a 程度の試作段階と、10a を超える実栽培では作業性や作業効率、収量や費用の経済性が大きく異なります。よって、最低でも 10a 以上での実際の栽培を見据えた試作面積が必要になると考えます。</p>	1 (6)	<p>① 開業当初は、現地での栽培に適した品目選定や、栽培管理が可能な品目を選定することを目的とした、試験栽培を行うことを想定しております。経済性を考慮すると 10a 以上は必要との点については、作付け面積を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
	<p>②P16 4.1.1 農福連携機能【基本的な考え方】</p> <p>必要に応じて、自動灌水や温度・湿度を管理する栽培シ</p>		<p>② 作業負荷低減や障がい者の方の作業実施については、村内外の福祉事業所へのヒアリングを行い、今後対応を</p>

	<p>システム、農家による技術指導の体制等、高齢者・障がい者の取り組みやすい栽培方法や作業体制を取り入れます。</p> <p>→ 高齢者や障がいのある方が農作業に取り組む場合、作業負荷の低減が重要だと考えられますので、自動灌水と環境制御技術(施設栽培)の導入は「必要に応じて」ではなく「必須」と考えます。</p> <p>また、地域の篤農家による指導は有益ではあるものの、農業経験のない高齢者や障がいのある方に対しては情報過多による混乱を招くことが懸念されます。特に、知的障がいや発達障がいの方への指導は極めて慎重に行う必要があるため、専門知識や資格保持者・経験者の同伴や事前レクなどの対応について検討をお願いします。</p>		<p>検討していきます。</p>
	<p>③P16 4.1.1 農福連携機能【基本的な考え方】</p> <p>また、将来的には、化学的に合成された肥料及び農薬や遺伝子組み換え技術を使用せず、農業生産に由来する環境への負荷を可能な限り低減する有機農業等の取組を検討します。</p> <p>→ 遺伝子組み換え技術については将来安全性が確立された場合、肥料や農薬の削減に貢献する可能性があるため、削除することが望ましいと考えます。</p>		<p>③ 国の有機農業の定義を参照しておりますので、記載の通りとさせていただきます。有機農業の考え方が変更された際には、それに合わせて記載の変更を検討します。</p>
	<p>④P16 4.1.1 農福連携機能</p> <p><生産品目を選定する際に留意する観点></p> <p>①栽培時期等の年間の栽培スケジュール:通年で栽培できる、あるいは冬季期間にも加工・出荷・梱包等の作業が生じる。</p>		<p>④ 作業にあたる障がい者の QOL を高めるという点でも、複数の品目栽培から 1 年を通して様々な作業が生じることが重要と認識しており、ご指摘の通りと考えます。資料に示した通年で栽培できるという点は、栽培管理等に作業が生じるという意味で記載しておりました。</p>

	<p>→ 通年栽培を行うよりも、季節に応じた複数品目を組み合わせた生産体系を確立することが重要だと考えます。</p>		
	<p>⑤P16 4.1.1 農福連携機能 <生産品目を選定する際に留意する観点> ⑩作業従事者のQOL:単一品目ではなく組み合わせ可能な複数品目を選定する方が、多様な作業が生み出され、従事者のQOL 向上につながる。 → 高齢者や障がいのある方が取り組む場合、複数の作業を行うよりも単一の作業をこなすことが望ましいと思います。これは、障害者福祉施設での事例でも明らかであり、また生産効率の面でも複数作業を行うことは非効率であるためです。</p>		<p>⑤ 福祉事業所からは、様々な作業を用意し、作業にあたる障がい者の方の体調や季節に応じて、組み合わせることが重要であるとの指摘を頂いております。また、同時に実施する作業は単一作業に絞って複雑な作業にしないことも挙げられていたことから、これらの指摘を踏まえ、障がい者の特性に合わせた対応ができるよう、検討したいと考えております。</p>
	<p>⑥P18 品目選定 → 抽出した品目について、経営面で赤字とならないと想定される品目はトマト、いちご、ぶどう、きゅうり、しいたけの5品目かと考えられますが、きゅうりといちごについては栽培管理に相当な専門知識と経験が要求される品目であり、働く方のことを考えれば避けるべきだと考えます。一方でトマトは比較的単純な栽培管理でありながら高い収益性があるため、有望な品目だと考えます。 また、露地栽培の品目はha規模の面積でないと赤字となりますし、梅雨や秋雨の時期の栽培管理はかなりの負担になりますので難しい品目が多いと思います。 いずれにしても、普及指導と農業経営専門の立場から言わせて頂きますと、現状では相当見通しが甘いのではない</p>		<p>⑥ 栽培品目・栽培方法については、開業後に少しずつ試験栽培を行いながら現地での栽培に適したもの、栽培管理が可能なものを念頭に決定していく予定です。 また、将来的に収益を上げられる栽培体制構築を検討してまいります。</p>

	<p>かと考えます。収益性の低い品目を栽培して赤字を出し農福連携等の補助金による収入で補填するといった経営を行うことは、将来に渡る持続・発展を目指す上では甚だ不適当と言わざるを得ません。</p> <p>よって、品目選定に当たっては収益性、生産性も十分に掘り下げて頂きたいと、強く要望します。</p>		
5	<p>①目次のページ 第1章～第5章 文字が大きい方が見やすいと思います。章の後の点（.）は削除した方がいいと思います。各ページの章の後にもあるので同じく削除してはどうか。</p>	1 (22)	<p>① 体裁はご指摘を踏まえ見やすく調整させていただきます。文字については、別途概要版を作成いたしますので、こちらをご覧ください。章の後の点は削除いたします。</p>
	<p>②P1、1.2本地区の状況の敷地面積の合計は、5.4ha となっていますが、カッコ内の数字を合わせると5.3ha です。修正が必要ですか。</p>		<p>② それぞれ少数第二位を四捨五入して表現しているため、足し合わせた際の数字が合っていないと思いますが、ご指摘を踏まえ、53,806 m² (仮設住宅跡地 35,332 m²、国有林 18,474 m²) と修正いたします。</p>
	<p>③P2、対象地の位置の地図に本宮駅もあると親切だと思います。</p>		<p>③ 地図に本宮駅の表記を追加いたします。</p>
	<p>④P5、大玉村農業振興公社の事業内容に一貫性がないと感じました。農業振興公社の事業内容ですが、「1 営農施策に関する取り組み」の内容が下の「当面の業務内容」と同じだったので、2～4の内容もそのまま「今後の取り組む業務」になれば、わかりやすいと感じました。</p>		<p>④ 構想に掲載した資料は、大玉村農業振興公社発行の資料です。ご意見は、公社へ共有させていただきます。</p>
	<p>⑤P5、1.2.3.4.の小見出しと内容が同じ枠で囲われているので、少し区別がしにくいのでもう少し見やすくした方がいいと感じました。</p>		<p>⑤ 構想に掲載した資料は、大玉村農業振興公社発行の資料です。ご意見は、公社へ共有させていただきます。</p>

	<p>⑥P6、②農業従事者の高齢化の説明で平成 17 年と平成 27 年が比較してありますが、年齢別就業人口の推移の表には、令和 2 年までであるので、平成 27 年ではなく令和 2 年と比較した方がいいのではないかと思います。</p>		<p>⑥ ご指摘を踏まえ、修正させていただきました。</p>
	<p>⑦P10、③人口増加や人口構造の変化が地域コミュニティに影響を与えています。と書かれていますが、そのような影響ですか。</p>		<p>⑦ より具体的な説明となるよう、「核家族化や転入者の増加など人口構造の変化、地縁的つながりの希薄化や価値観の多様化により、地域コミュニティにも影響を与えています」と修正いたします。また、こうした影響の中で地域活動や交流による支え合いが求められていると整理しております。</p>
	<p>⑧P11、土地利用計画大玉村計画現状図の凡例をもう少し大きくし、字が読めるようにしてはどうかと思いました。</p>		<p>⑧ ご指摘を踏まえ、修正させていただきました。</p>
	<p>⑨P11、右下の写真のキャプションを「農村集落的な大玉村の景観」にした方がわかりやすいと思いました。</p>		<p>⑨ ご指摘を踏まえ、修正させていただきました。</p>
	<p>⑩P12、②の文章中の杉田川における小水力発電や木質ペレットの写真があれば、初めて知る人にはよりイメージしやすいと思いました。</p>		<p>⑩ ご指摘を踏まえ、小水力発電や木質ペレットの写真を追記させていただきました。</p>
	<p>⑪P12、(2)の①の文章中の合計出力 10kw 以上の 10kw とはどのぐらいの大きさですか</p>		<p>⑪ ご指摘を踏まえ、構想 4.1.2 の【各再生可能エネルギーの概要及び活用事例】に追記いたしました。</p>
	<p>⑫P14、『持続可能な「共生社会」の実現に向けた実践と挑戦拠点』というコンセプトは、職員の皆さんの意気込みが感じられ素晴らしいと思います。でも、もう少し短い文章の方が、わかりやすく言いやすいと感じました。例えば『持続可能な「共生社会」の拠点づくり』とか。</p>		<p>⑫ ご指摘ありがとうございます。ご指摘の内容も最もですが、今回の構想では、特に農福連携機能について、試験的に栽培や農福連携を実施し、今後展開していくことが想定されます。そのため、「実践と挑戦」というワードは必要になると考えております。</p>

<p>⑬P15、導入すべき機能の中に「水辺の環境学習」とありますが、水は森の肥沃な土壌を通して浄化されきれいな水になると思います。水辺だけではなく、対象地にある森を利用した学習も必要ではないでしょうか。</p>		<p>⑬ ご指摘を踏まえ、構想 4.1.5 にて、「百日川周辺の環境資源（河川・林など）～」と修正させていただきました。</p>
<p>⑭P16、生產品目を選定する際に留意する観点の枠内の文章で、ソーラーシェアリング、六次産業化、QOL の意味を文章の前後にあると親切だと思いました。例えば QOL（生活の質）とか。農業に詳しい人に読んでいただくなりらないのかもしれませんが・・・</p>		<p>⑭ ご指摘を踏まえ、QOL（生活の質）と修正させていただきました。</p>
<p>⑮P27、一番下の写真のキャプションは URL ではなく、機械の名前「バイオガス発電」と説明が必要だと思いました。PC で資料を見ればバイオガスだとわかりますが、冊子になった場合わからないと思います。</p>		<p>⑮ ご指摘を踏まえ、「小型バイオガスプラント発電」と名称を記載させていただきました。</p>
<p>⑯P30、クラブハウスの後に管理棟と入れた方が、再エネ・アグリパークを管理する中枢的な場所だとイメージできます。クラブハウスといえスポーツや娯楽施設にある建物のイメージがあります。</p>		<p>⑯ ご指摘を踏まえ、構想 4.1.4 のタイトルを「クラブハウス（管理棟）機能」と修正させていただきました。</p>
<p>⑰P30、クラブハウス、農業用ハウスの表の一番下にある数字（必要電力量）を比較できるものがあるとイメージしやすいです。例えば一般家庭何世帯分とか。</p>		<p>⑰ ご指摘を踏まえ、1 家庭分の必要電力を構想 4.1.2 の【各再生可能エネルギーの概要及び活用事例】に追記いたしました。</p>
<p>⑱P31、交流機能の文章中の BBQ は文章にするならバーベキューの方がいいのではないかと思います。（他のページにも出てきます。）</p>		<p>⑱ ご指摘を踏まえ、バーベキューと修正させていただきました。</p>
<p>⑲P31、公園の施設を考えているようですが、村民の森や今</p>		<p>⑲ 今回の構想にて掲載している公園は交流農園整備の前</p>

	<p>後計画予定の親水公園との関係はどうなりますか？どちらにもお金はかけられないような気がするのですが・・・</p>		<p>の暫定利用となります。また、整備にあたっては、各種補助制度を活用し、整備コストの低減を図ります。</p>
	<p>⑳P34、市民農園 おおたまコモンの実績報告のようなので、実施した年度を明記した方がいいと思います。</p>		<p>⑳ ご指摘を踏まえ、実施年度を記載いたしました。</p>
	<p>㉑P35、文章中の「EV ポート」説明があると親切ではないでしょうか。</p>		<p>㉑ ご指摘を踏まえ、EV ポートに関する注釈を記載いたしました。</p>
	<p>㉒P45、障がい者雇用の段階的に考えるのはいいことだと思います。能力を最大限に活かし楽しく働いて貰うためには、対応できる専門的な人材の確保も必要だと思います。 農福連携に対して、村内の障がい者施設の反応はどのようになっていますか</p>		<p>㉒ ありがとうございます。村内の福祉事業所様等とのヒアリングでは、構想として取組が始まったことに対してポジティブな意見をいただいております。ただし、もちろん課題も多くご教授いただいているため、それらについては今後計画を具体化する中で、検討させていただきます。</p>